

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2020.5. VOL.42

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

Web会議システムを通じたオンライン配信授業の導入の試み



2年生から4年生の
オンライン講義風景

新型コロナウイルスによる感染の拡大に伴い、3月6日には、講義期間中であった新3年生(2年生)、新4年生(3年生)の講義が9日から休講することが決定されました。しかし、カリキュラム改革に伴い休講措置とした新4年生の36コマの講義については、補講や日程変更がスケジュール的にも難しいと判断されたため、3月6日のカリキュラム委員会でWeb配信が検討され、3月10日の教授会にて36コマ分の講義について、3月12日から試験的にWeb会議システムによる講義のリアルタイム配信を試みることに決定されました。実際に受講した学生からは「最初はうまく受けられるのかと心配したが、実際はなんの障害もなくしっかりと先生方の授業を受けることができた」「スライドの画質がプロジェクターより遥かに良いので、講義内容が理解しやすかった」「通常の講義と異なり、周囲の環境などを気にせず集中して受講することができた」といった声があがっており、好評でした。

この結果を受け、更にその後、4月6日から新4年生、4月7日からは新2年生、新3年生のWeb講義が本格的に開始されています。講義の開始にあたっては、各学年とも2回の短時間の利用方法に関するテスト配信と、音声確認のためのテスト配信を実施しています。教員向けには3月30日から4月1日にかけて計6回のFDを兼ねた使用方法講習会を行い、いくつかの講座の方にはハンズオンで少人数の使い方の講習会も実施しました。現在では、いくつかの小さいトラブルもあったものの比較的スムーズに運用されています。新型コロナウイルスが収束するまで、当分講義はオンラインで進められていく予定です。先の見えない中、学年代表を始め学生たちにも様々な点で協力いただき、学生のためにも学びを止めないようサポートしていきたいと思っています。また講義を担当する先生方やそれをサポートするスタッフの方には、配付資料の事前送付など様々なご負担をおかけしておりますが、今後ともご協力頂けると幸いです。

文責:医療人育成学 柿崎真沙子



学生の受講風景



学生向け使用方法講習会の様子



“瑞医の由来”

「瑞医(ずい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

教 育

BRJ活動内容の報告&BRJ修了式を実施しました

Beyond the Resident Project (BRJ)は、医学部カリキュラムを超えて、より実践的に臨床を学びたいという学生の声から2015年に始動しました。将来選択する診療科に関わらず医師として必要となる基本的な臨床スキルを学生のうちに身につけることを目標として、学生自身の積極性と自立性を基盤として活動しています。学生間の口コミから低学年にも活動の幅が広がり、2019年度からは選択科目として名市大医学部のカリキュラムにも採用頂きました。既に医師として活躍しているOBが後輩の指導に参加するなど屋根瓦式の繋がりも大切にして活動を行っています。



文責:高度医療教育研究センター 高桑 修

1年次の活動に参加した5名は胸部単純X線読影を通して臨床と解剖の繋がりや肺炎や肺癌といった基本的な疾患の概念を学びました。2年次には心電図を学ぶ予定です。また長期休暇中に蒲郡市民病院や旭労災病院を見学する機会を頂きました。



M1, 2: 病院見学の振り返り会

各々が医師に丸1日ついてまわり、実際の医療現場を肌で感じ、振り返り会で経験を共有しました。これまで患者の立場でしか関わることのできなかった医療を医師の側から感じる事ができ、自分達がめざすべき医師のイメージを描くことができました。知識と実践の関連も掴むことができ、今後の基礎医学の学習もより意義のあるものになると感じています。

文責:医学部2年 深川雄貴

私たち24名は、5年次の1年間、心電図や胸部単純X線の読影、身体診察、腹部超音波検査などの実践的なトレーニングに取り組みました。臨床実習との両立など苦勞することもありましたが、先生方の経験談も交え和気あいあいとした雰囲気での学習することができました。また、長期休暇中には蒲郡市民病院での当直実習や足助病院でのへき地医療研修なども経験しました。日頃の学習では国家試験のためにに向けた知識の詰め込みになりがちですが、BRJで取り組んだ学びは研修医になってからも大きな力となると感じています。

今春入学された皆さんやこれから医学部を目指される方にも名市大のBRJ活動を是非知って頂きたいです。最後になりますが、お忙しい中熱心にご指導頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。

文責:医学部6年 左安棋



M5: 胸部単純 X 線読影



M5: 終了式

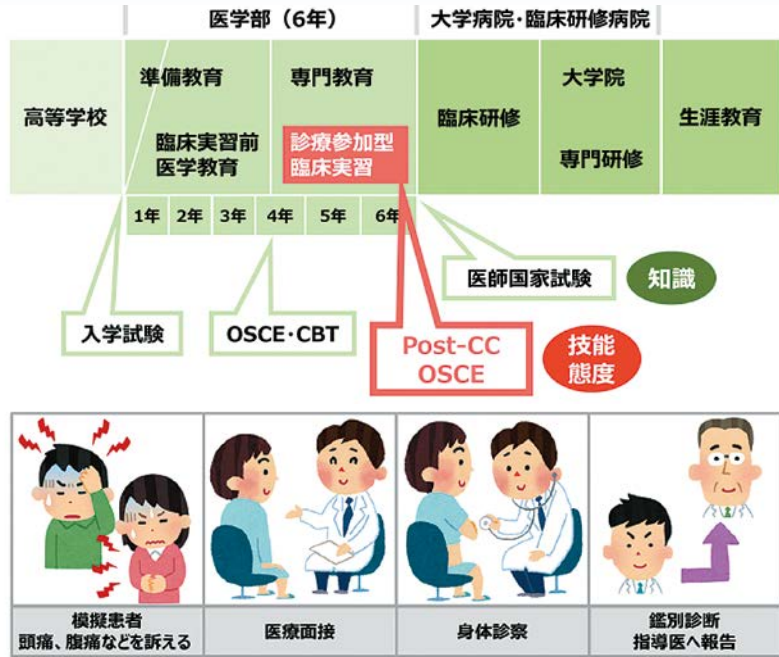
02 教育&研究

Current topics in research

教育

臨床実習後客観臨床能力試験 (Post-CC OSCE) 正式導入について

段階的に導入されてきました新カリキュラムによる医学教育を修了する第一期生が2020年度に6年生になります。新カリキュラムに従い教育された医学部生の卒業要件として、臨床実習後客観臨床能力試験 (Post-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination; Post-CC OSCE) が10月10日(予定)に実施されます。本試験は、これまでの座学による知識だけを問うものではありません。頭痛や胸痛など具体的な症状を訴える模擬患者を対象に、適切な問診および身体診察から病状(病名)を時間内に論理的に推論できる能力が問われます(診断能力)。生半可な知識では対応できず、病態を含めた各疾患の特徴を有機的に関連付けて考察できることが必要になります。合格基準は、研修医として病院で患者診察を任せられることができるレベルに達していることです。またOSCE同様に、判断の標準化と公平性を担保するために、機構を中心に試験官が相互に大学間を往来する評価方式が用いられます。2019年1月から大学・関連病院にて実施されてきたBed side learning (BSL)の成果が問われることとなりますので、結果に期待を持ちながら全指導者が注視しておく必要があります。



文責:カリキュラム委員会 Post-CC OSCE 委員長 松川 則之

研究

科研費採択実績推移と、令和2年採択速報

令和2年度「若手研究」の採択率は46%!絶好調です。昨年度の過去最高値50.4%には及びませんでしたが、かなりの高水準を保っています(例年30%台前半)。

医学研究科では、平成23年度から科研費応募セミナー、平成28年度から申請者とは別所属教員によるピアレビューを実施しています。更に今回の応募時には、「基盤AB勉強会」を実施しました。これが功を奏してか、基盤Bの採択率は42%という前代未聞の結果でした(例年20%台です)。学長はじめURAのご協力の下、申請者、レビュワー、聴講者が一堂に会し、緊張感たっぷりの公開ピアレビューでした。「基盤AB勉強会」は当初「学長と勉強会」という名称で希望を募りました。学長のカリスマ性と大型課題への関心の深さが重なり、募集開始から程なくして定員数に達しました。大型に応募する経験値の高い研究者であっても、このような機会を待ち望んでいらしたのだと痛感しました。

医学研究科では多くの研究者の方が科研費を保持していますが、まだまだ伸び代は無限大です。今後の課題は、この高水準率の維持と大型種目への応募数拡大であります。

今年度から「新学術領域」が、「若手研究者の参画を得つつ多様な研究グループによる有機的な連携が求められる種目「学術変革領域」」に変更となりました。こうした変化は社会からの要望や期待を反映しているため、個々の研究者だけの取り組みではなく、部局、大学が一丸となって情報収集に努め、他分野、他所属、他機関と連携する必要があります。我々事務方も包括的な研究支援を目指し日々精進です!

医学研究科 文科研費 採択実績 (一部抜粋)

種目	採択年度			30年度			31年度			R02年度		
	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率
基盤研究 (A)	1件		0%	2件	1件	50%	2件	1件	50%			
基盤研究 (B)	12件	2件	17%	22件	6件	27%	26件	11件	42%			
基盤研究 (C)	146件	44件	30%	157件	46件	29%	146件	40件	27%			
若手研究	116件	37件	32%	137件	69件	50.4%	123件	57件	46%			

新任教授紹介

リハビリテーション医学分野 — 植木 美乃 教授

この度、令和2年1月1日付で社会復帰医学講座 リハビリテーション医学分野の教授を拝命いたしました植木美乃と申します。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

私は平成9年に名古屋市立大学医学部を卒業いたしました。その後、京都大学医学部附属病院で内科研修医として研修を積んだ後に東京都立神経病院で勤務致しました。その際に、パーキンソン病を含めた神経難病の内科的・外科的・リハビリテーション治療を組み合わせた包括的治療を経験しました。平成14年から京都大学医学部附属高次脳機能センターで博士課程大学院生として、特に神経難病の電気生理学やニューロモジュレーションの基礎を学び、平成18年から米国国立衛生研究所にて研究員としてニューロリハビリテーションの開発に取り組みました。平成20年から名古屋市立大学へ戻り、平成26年からはリハビリテーション医学分野の教員として名古屋市立大学病院の診療及び特に神経難病のニューロリハビリテーションの臨床研究に携わって参りました。

現代社会が成熟していくに伴いリハビリテーション科の果たす役割は益々重要となっております。現代医療は包括的医療-個別化医療と様々な側面があり今後はゲノム、薬剤、移植治療のみならず深層学習などのAIによる医療革新も目前に迫っております。そうした医療情勢の中で、地域社会に根付き市民のQOLを高めるためのリハビリテーション医療を展開することが、私の責務であると考えております。リハビリテーションは「機能」「活動」「障害」に根ざしており、疾患の種類を選びません。今後も各科の先生方と協力・連携を強化させていただきながら名古屋地域でのリハビリテーション医療の更なる充実に取り組んで参りたいと存じます。



植木 美乃 教授

新任教授紹介

消化器外科学分野 — 松尾 洋一 教授

この度、2020年4月1日付で、消化器外科学教授(診療担当)を拝命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

1994年に名古屋市立大学を卒業し、当時の第1外科学教室に入局いたしました。初期研修ののち、大学で2年間、小児外科に従事しました。全身の解剖と発生、そして生理を学んだこの経験は、今でも臨床の礎となっております。その後、刈谷総合病院で3年にわたり消化器外科全般の研鑽を積み、2002年に大学院生として帰局しました。膵癌血管新生に関する研究を行い、その成果をもとに2006年からMD Anderson Cancer Centerに留学し、最先端の癌研究を体験しました。2009年に帰国してからは、大学院生と研究を継続しつつ、肝胆膵の臨床に従事しております。なかでも悪性度の極めて高い膵癌を専門とし、手術を基軸とした積極的な治療を行っております。また、手術の難易度は高いですが、発癌率を低下する慢性膵炎の外科治療にも取り組んでおります。さらに、炎症と発癌の理念に基づき、腹腔鏡やロボット支援といった低侵襲手術を肝胆膵領域にも安全かつ段階的に導入することに成功いたしました。もちろん、大学は研究機関であるという認識のもと、学内外の研究室と連携し、膵癌治療の基礎的アプローチも行っております。これらの臨床や研究に加え、次世代のスペシャリストを輩出できる教育システムが構築できるようにさらに尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



松尾 洋一 教授

新任教授紹介

地域医療教育研究センター— 竹本 隆 教授

この度、2020年4月1日付けで、名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育研究センター教授を拝命致しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は、1988年に愛知学院大学歯学部を卒業後、口腔外科学第一講座(現、顎口腔外科学講座)に入局致しました。大学在籍時、臨床面では顎変形症の手術に興味を持ち、また研究面においては、糖尿病の創傷治癒に関する研究を行って参りました。学位取得後は、藤枝市立総合病院、総合大雄会病院、多治見市民病院に赴任し、地域医療に携わって参りました。その後、2010年4月に現職の蒲郡市民病院歯科口腔外科に部長として赴任しました。当科は蒲郡市を中心に、周辺地域約12万人の歯科医療における2次医療機関の役割を担っております。近年の高齢化に伴い、基礎疾患を有する患者数も増加しており、地域の医科開業医や院内他科との連携のさらなる強化を目指しております。

地域医療教育研究センターにおいては、名古屋市立大学、愛知学院大学、蒲郡市民病院の連携において、共同研究・人事交流・人材育成等に貢献できればと考えております。この連携体制のもと、再生医療などの共同研究に協力し、蒲郡の地で大学病院に遜色のない先進的な医療の提供に寄与できれば幸いです。また、これまでの経験を若手の歯科医師に少しでも伝えることができるよう努めて参りたいと思っております。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



竹本 隆 教授

名誉教授のご紹介

心臓血管外科学分野— 三島 晃 名誉教授

三島晃教授は、1981年に名古屋市立大学医学部を卒業され、故由良次郎教授が主催されていた本学の第一外科学教室に入局、1987年に本学大学院医学研究科を修了されました。早くから心臓血管外科に興味をもたれ、学位論文は心臓手術における心臓を安全に停止させる技術、心筋保護法に関するものでした。その後刈谷豊田総合病院で6年間研鑽され、1993年に第一外科学教室助手、1998年に同講師を経て、2001年に医学研究科に新設された心臓血管外科学分野の初代教授に就任されました。

先生は永年にわたって心臓血管外科学の臨床、教育、研究に務め、特に小児心臓血管外科学の分野では東海地区を代表する外科医として活躍、重篤な心奇形のある数多くの新生児および乳児の命を救済し、本学の心臓血管外科学教室の基礎を築かれました。その診療の様子は、2015年7月に中日新聞の「医人伝」にも紹介されています。また成人や高齢者の医療ニーズが多様化するなか、2009年の名古屋市立東部医療センターにおける成人心臓血管外科の開設、および旧第一外科と旧第二外科の再編による新たな消化器外科学分野の設立に、指導力を発揮し多大な貢献をされました。また、大学附属病院の医療安全担当の副院長を5年間、経営と診療担当の副院長を3年間務め、人の「いのち」に直結する医療行為を通じて医療安全への造詣を深めその文化を醸成するとともに、病院経営にも尽力されました。

現在は、愛知県の豊川市民病院で特命管理監として、地域医療の向上と名古屋市立大学との連携強化に精力的に取り組まれています。

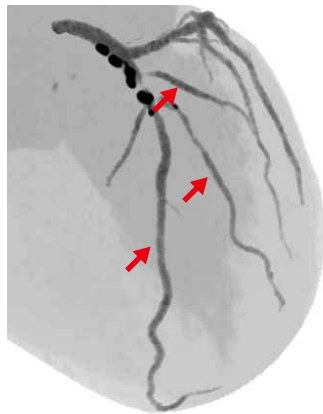


三島 晃 名誉教授

文責:心臓血管外科学分野 助教 山田敏之

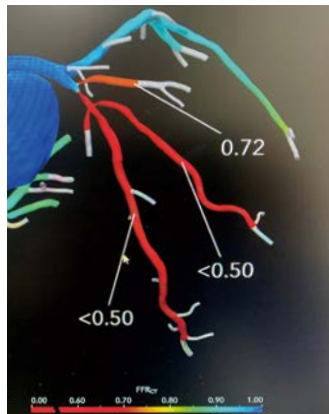
非侵襲的心筋血流予備比検査 (FFR-CT) を導入しました

胸痛を訴える患者さんについては冠動脈疾患(狭心症)がまず疑われます。今までは外来における精密検査として造影CT検査によって冠動脈狭窄の有無を診断してきました(CT冠動脈造影)。CT冠動脈造影によって、簡便に高度の狭窄がなくステント挿入や冠動脈バイパス手術の必要がない患者さんをスクリーニングすることができましたが、逆にこれらの治療法が必要であるとの確定診断はできませんでした。そこで、この度名古屋市立大学病院は精度高く心筋の血流障害を診断する手法としてFFR-CTを導入いたしました。FFR-CTは今までも施行してきたCT冠動脈造影画像を個人情報のセキュリティーを確保した上で米国に送付し、米国で解析が行われて結果が戻って来ます。冠動脈疾患の診断には目で見ただけではなく、機能的に血流が不足していることの証明が要求される時代になっていますが、FFR-CTは正にこの要望に応え得る方法です。この検査の結果、ステント挿入や冠動脈バイパス手術の必要があると診断された場合には入院して冠動脈造影検査を受けなければなりません。FFR-CTが施行できる施設は、日本循環器学会・日本心血管インターベンション治療学会の研修施設、および日本医学放射線学会の総合研修機関のすべてに該当しなければならないとの縛りがあり、先進的な診療を行っている施設に限られます。



冠動脈CT (angiographic view)

造影CTの画像。矢印で示した枝の根元に狭窄が疑われる。



FFR-CT

赤く表示される3本の枝に血流の不足(FFR<0.75)がある。冠動脈インターベンションが必要な有意狭窄である。



冠動脈造影

同じ角度で撮像した冠動脈造影。冠動脈インターベンションの手法はこの画像を見ながら行う。

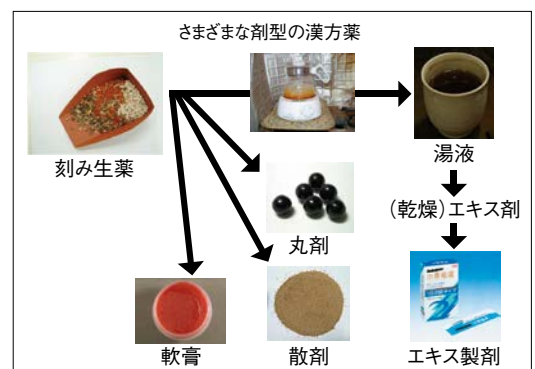
文責:循環器内科学 教授 大手信之

東洋医学と西洋医学を連携させた総合的治療を目指して

名古屋市立大学病院に3月1日より漢方医学センターが開設されました。最先端の西洋医学を担う大学病院ではゲノム治療や急速に進化する抗癌剤治療が中心であります。しかしご存知の通り未だに完全に治癒させることができる疾病は稀であり治療効果と共に多彩で強い副作用も深刻な問題となっています。漢方医学センターの特徴は西洋医学では対応しきれない症状、病状の改善、抗癌剤治療の副作用軽減、治療法未開発な難治性疾患への漢方併用にあります。金曜日の総合漢方外来、内科(特に消化器)と火曜日の外科、泌尿器科、いたみセンターに各医師が外来担当し依頼箋、紹介状でご依頼頂いております。外科では入院中から積極的に漢方併用治療を導入し術後の早期回復に努めており、また、泌尿器特有の疾患や様々な原因による痛みに対し漢方を併用した多角的な治療を実践しております。総合漢方外来では適宜中国医学の専門家の意見を参考に既成のエキス処方(図)だけではなく植物の葉、茎、根、鉱物、動物、虫類を使用した生薬(図)による患者個人に対するオーダーメイド治療も可能です(これらは保険適応です)。生薬を使用した重篤な病態への処方例としては、①西洋医学では治療不可能な重度肝硬変の進行肝癌に対し著効後2年間無再発持続した症例、②全身性難病で止血困難な鼻出血の止血に有効であった症例、さらには③肝癌抗がん剤の副作用である重度尿蛋白を抑制した症例等があります。こういった難治例への使用や抗癌剤の副作用軽減に対する使用例を今後も増やしていきたいと思っております。

既存の治療で中々治療効果が出ない症例、現在の西洋医学の範疇では治療法がほとんど提示されていない症例等お困りの症例があればお気軽にご依頼ください。

文責:漢方医学センター長 野尻俊輔



研究科長がコンケン大学・ハルリム大学を訪問しました

タイ・コンケン大学医学部との学部間交流協定を締結

コンケン大学は、タイの首都バンコクから440キロ北東部のコンケン市にある国立大学です。1964年にタイ東北部で最初に設立された大学で、17学部4万人の学生を有するタイ東北部最大の総合大学です。

そのコンケン大学で2019年12月18日、コンケン大学医学部と名古屋市立大学医学部間の学部間交流協定を締結しました。調印式には名市大側から医学研究科長の道川誠先生、整形外科教授の私(村上英樹)、整形外科医局長の野崎正浩先生の3名が参加しました。

協定締結後には早速、コンケン大学医学部の整形外科医が3月の1ヶ月間、名市大整形外科に留学する予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス問題で延期となりました。また、4月にはコンケン大学整形外科の教授他2名が名市大整形外科学教室を訪問する予定でしたが、これも中止になりました。しかし、両整形外科学教室では脊椎固定術の力学研究をスタートさせており、今後、両大学医学部間の交流を益々広く発展させていき、できる限り早期に大学間交流協定締結につなげたいと考えております。

文責:整形外科学教授 村上英樹



調印式(道川研究科長とコンケン大学医学部長)



調印式の参加者(前列左から2番目:道川研究科長、前列左端:村上、後列左から3番目:野崎医局長)

ハルリム大学との合同シンポジウムを開催

2019年11月28日(木)、第4回合同学術シンポジウムがソウル市内のハルリム大学附属病院にて開催されました。医、薬、看護、システム自然の各研究科から9名の教員がこれに参加、本学とハルリム大学からそれぞれ8名の演者が基礎・社会医学系から臨床医学まで幅広い分野における最新の研究成果を発表し活発な討論、意見交換の場になりました。くわえて、ハルリム大学のユン理事長、キム前副学長、スウ医学部長、ユン理事らと共同研究推進や学生交流などについて発展的な話し合いが行われました。10年以上にわたる本学とハルリム大学との学術交流は、本学が掲げる未来プランのうち「国際化」の先駆けのひとつといえます。

文責:医学研究科国際化担当副研究科長 酒々井眞澄



オープニングセレモニーでの本学とハルリム大学の関係者

救急科 山岸庸太先生が名古屋市消防局に表彰されました

令和2年1月31日(金)、名古屋市公館に於いて名古屋市消防表彰式が開催され、名古屋市消防長より、消防協力者として個人表彰されました。この表彰は名古屋市長及び消防長より、消防行政に貢献した市民や団体に授与されるもので、今回で72回目の開催と、大変歴史があります。また、個人表彰は今回も8名と少なく、大変名誉な表彰です。私は約10年前から救急救命士の教育に従事しており、このことが認められ、今回表彰されることとなりました。

重症傷病者の救命には「適切な患者様を、適切な時間内に、適切な医療機関へ搬送する」ことが重要であり、病院前においては、その判断と処置は救急救命士の手腕に掛かっています。従って、手術等で「STOP THE BLEED(血を止める)!!」を実践する病院スタッフのレベルアップはもちろんのこと、救命には、救急救命士の方々の知識と技術の向上が不可欠です。

今回の表彰を励みに、今後も救急救命士教育を継続し、多くの救急災害医療分野において名古屋市立大学病院の一職員として社会貢献していく所存です。今後共、御支援の程宜しくお願い申し上げます。



法医学分野 加藤秀章先生が名古屋高等検察庁から表彰されました

全国各都道府県には刑事事件について捜査及び起訴・不起訴の処分を行い、裁判所に法の正当な適用を請求し、裁判の執行を指揮監督する地方検察庁が1つずつ設置され、愛知県では名古屋地方検察庁がその任にあたっています。その上級機関として中部8県の地方検察庁を統括する名古屋高等検察庁の検事長から、このたび「多年にわたり鑑定医として検察庁における刑事司法の適正な運用に貢献」したとして感謝状を授与されました。鑑定医として司法解剖を実施すると、解剖結果についての鑑定書を作成します。その結果に裁判で争いがあるような場合には、鑑定医として裁判に出廷し、医学的知見に基づいて証言を行います。今回、鑑定医として高等検察庁から評価いただけたものと大変光栄に思います。



医学部の卒業式を実施しました

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月25日(月)に実施予定だった卒業式が中止となりました。例年は卒業式後に学部別の学位授与式を行っていましたが、それも中止せざるを得なかったため、感染防止を図りつつ、個別に学位記を配布する機会を設けました。合わせて、医学部を巣立ち、医師としての第一歩を力強く踏み出してほしいとの気持ちを込めて、郡学長、道川医学部長と医学部教授陣の署名を記載した記念色紙を手渡しました。



世界緑内障週間に合わせてオアシス21を緑色にライトアップしました

緑内障は、我が国の失明原因第1位の病気ですが、早期に発見し治療を継続すれば、失明する可能性の低い病気になっています。緑内障の啓発のため、日本では、世界緑内障週間に、『ライトアップ in グリーン運動』で「40歳を過ぎたら眼の定期検診を!」と伝えています。名古屋市立大学病院アイセンターでは、名古屋ウエストライオンズクラブ、愛知県眼科医会のご協力のもと、2018年からこの運動に参加、3回目となる今年も、3月12-14日栄のオアシス21を緑色にライトアップしました。



医師国家試験結果について

令和2年度 医師国家試験結果

対象者(本学)	新卒	92名
	既卒	8名
	合計	100名

第114回医師国家試験が2月8日(土)・9日(日)に実施されました。本学は新卒者92名のうち、90名が合格との結果になりました。全国70校の医学部・医科大学中では20位、愛知県の4大学では最も高い合格率となりました。医師国家試験は団体戦だとよく言われます。同級生どうしでフォローし、勉強面でも精神面でも支え合ったことが近年では最もよい結果につながったと思います。

合格状況	第114回全国統計		合格率		(参考)第113回全国統計
	受験者数	合格者数	合格率		
	9044名	8583名	94.9%		92.4%
	10140名	9341名	92.1%		89.0%
合格状況	第114回本学統計		合格率		(参考)第113回本学統計
	受験者数	合格者数	合格率		
	92名	90名	97.8%		92.9%
	8名	6名	75.0%		66.7%
	100名	96名	96.0%		91.8%



「明るく未来へ、七色の架け橋 ~名市大の果てしなき挑戦~」 開学70周年記念事業のご案内

名古屋市立大学では、開学70周年を機に、開学100周年を見据え、学生会館のリニューアルや各キャンパスにおける施設整備のほか、記念式典や記念誌の編さん等の記念事業を実施することといたしました。

本学のさらなる発展のため、皆様からの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【寄附金についてのお問い合わせ先】

事務局総務課 Tel:052-853-8005

受付時間:月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで

【開学70周年記念事業】

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/memorial/70h.html>



広報誌：瑞医(ずい)

発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2020年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☒
我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新的话题をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail: hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで